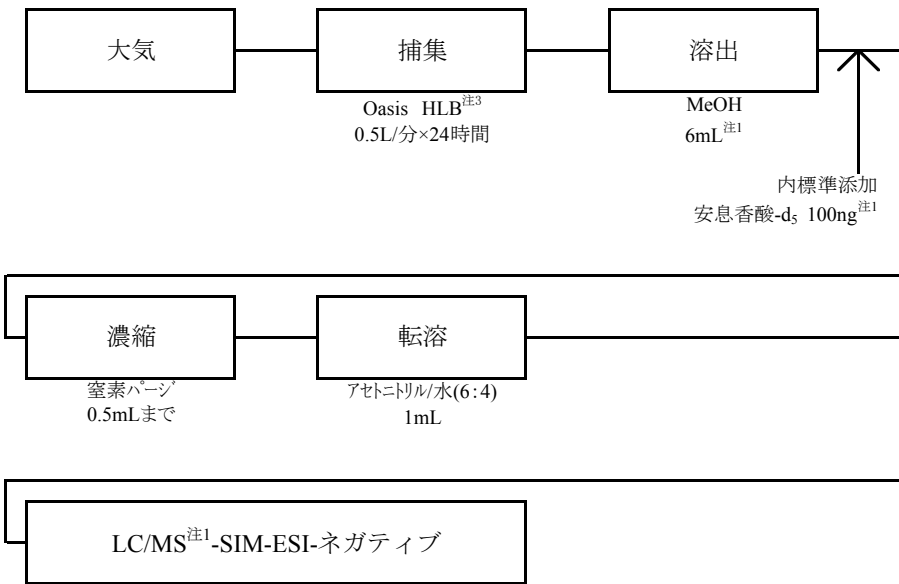


調査対象物質	分析法フローチャート	備考
[1]アジピン酸	<p>【大気】</p>  <p>大気</p> <p>捕集 Oasis HLB^{注3} 0.5L/分×24時間</p> <p>溶出 MeOH 6mL^{注1}</p> <p>内標準添加 安息香酸-d₅ 100ng^{注1}</p> <p>濃縮 窒素パーズ 0.5mLまで</p> <p>転溶 アセトニトリル/水(6:4) 1mL</p> <p>LC/MS^{注1}-SIM-ESI-ネガティブ</p> <p><注>次に示す方法を採用した例もあった。 1:溶出においてMeOHの量を5mLとし、その後1mLを分取し、内標準物質として安息香酸-d₅ではなく¹³C₆-アジピン酸 40ngを使用した。また、測定機器としてLCはShimadzu Prominence System、MSはAPI 4000、カラムはODS-3を使用し、LC/MS/MS-SRM-ESI-ネガティブで測定した。 2:測定機器としてLCはWaters 2695、MSはQuattro micro APIを使用した。 3:捕集においてOasis HLB Plusを使用した。</p> <p style="text-align: right;">「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」準拠</p>	<p><分析原理> LC/MS^{注1}-SIM-ESI-ネガティブ</p> <p><検出下限値> 【大気】 (ng/m³) [1] 90</p> <p><分析条件> 機器 LC : Agilent 1100 Series^{注1 注2} MS : サーモクエスト TSQ API-2^{注1 注2} カラム Discovery HS PEG^{注1} 150mm×2.1mm、5μm</p>